

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(3ヶ月以上1年未満)

2017年 6月10日

東京大学での所属学部・研究科等:	教養学部	学年(プログラム開始時):	学部4
参加プログラム:	全学交換留学	派遣先大学:	シェフィールド大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
	1. 研究職		2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
	3. 公務員		4. 非営利団体
	✓ 5. 民間企業(業界:)		6. 起業
	7. その他()		

派遣先大学の概要

イングランド北部、サウスヨークシャー州に位置する都市にある大学。ラッセルグループの一員であり、世界大学ランクでも100位以内に入るなど、高い教育水準を誇る。キャンパス型大学ではないので、街の各所に大学の建物が存在している。Students Union(SU)と図書館の満足度が英国一位である。

留学した動機

ルクセンブルクを除けば世界で唯一、ルクセンブルク研究で学位を取得できる大学であり、専門の研究センターが存在したため。ルクセンブルクの言語事情に関心があった自分に最適であった。

留学の時期など

①留学前の本学での修学状況:	2016年	学部4	年生の	S2	学期まで履修
②留学中の学籍:	留学				
③留学期間等:	2016年	9月~	2017年	6月	
	学部4	年時に出発			
④留学後の授業履修:	2017年	学部4	年生の	A1	学期から履修開始
⑤就職活動の時期:	2016年	学部4	年生の	1月頃に	行った
⑥本学での単位数:	留学前の取得単位			72	単位
	留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位			0	単位
	留学後の取得(予定)単位			12	単位
⑦入学・卒業/修了(予定)時期:	2013年	4月入学	2018年	3	月卒業/修了
⑧本学入学から卒業/修了までの期間:	5年		0ヶ月間		
⑨留学時期を決めた理由:					

サークルの幹部代が学部3年生の1月までだったため、それを全うしたかった。
また、留学先で十分に成果を得ることができるだけの予備知識や英語力を蓄えておきたかった。

留学の準備					
①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)					
3月になって初めて大学側からのコンタクトがあり、4月に書類提出が完了した。基本的に指示通りにすれば問題はないが、教員から英語で推薦文を書いてもらう必要があるため、その点だけは早めの動き出しをお勧めする。全学に申請する際に日本語の推薦書を書いてもらうと思うので、その際に英語版もお願いしてもいいかもしれない。IELTSスコアに関しては、留学開始時期(9月)の段階で有効なものが必要なため注意。					
②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)					
種類はTier4 General Studentというもの。Visa4UKというサイトから申請、および書類提出の予約ができる。ビザの申請所では書類の受諾しか行わず、必要書類が出揃っているかどうかのチェックは自ら行う必要がある。なお、有料でチェックしてくれるサービスもあるが、事前にしっかり確認して行けばまず大丈夫。					
③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)					
基本的に体調を崩すことがあまりないので、正直ろくに行っていない。一度乾燥で喉がやられたので、龍角散(粉状のもの)を重宝した。持病がある人は事前に病院で留学に行く旨と期間を伝えれば、必要な量がもらえるはず。肌が弱いという日本人の友人は、スキンケア用品を大量に持ち込んでいた。					
④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)					
全学に申請する際に義務的に付帯海学に加入させられるが、それで充分だと思う。					
⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)					
帰国後、9ヶ月での卒業となるため、卒論関連以外の必要単位は取得しておいた。出発は9月だったのでSセミスターの授業の試験・論文提出等は通常通り行った。					
⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)					
IELTSスコアは7.5と決して高くはなかったが、特別留学に向けた勉強は行わなかった。強いて言えば、イギリス留学生用の英会話ブックを購入して、必要なフレーズをいくつか覚えておいた。なお、日頃から英語の論文やレクチャー、テレビ番組等には触れていたため、英語に触れていないわけではなかった。					
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど					
基本的には英国でなんでも揃うが、百均のキッチングッズは英国の製品よりはるかに安くて高品質。醤油や出汁、味醂など日本で使う調味料は、やや高いが普通に手に入る。お米、炊飯器もある。服はサイズや嗜好が合わなかったりするので、多めに持っていくことをお勧めする。就活の予定がある場合はスーツも持っていくと良いだろう。イギリスの観光ブックも、旅行が好きならあると良いかもしれない。(こちらの観光ブックは写真が全然なく、文章ばかりで見にくいので)					
学習・研究について					
①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合) ※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったもの(又は行う予定のもの)に●をつけてください。					
授業科目名	単位数	単位認定の申請	授業科目名	単位数	単位認定の申請
Germanic Languages in Social Context	20				
Introduction to Luxembourgish Language and Culture	20				
English as Foreign Language	20				
Language in Use: Introduction to Corpus Linguistics	20				
Introductory Linguistics for Modern Languages	20				

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)
予習課題の論文は、事前に自分なりにまとめて授業に臨み、講義を聴きながら加筆修正していくようなやり方だった。生徒間での意見交換を求められることも多いため、しっかり予習内容を頭に入れておかないと恥をかくことになると思う。ルクセンブルクの言語文化に関する授業では、授業外の時間でロンドンのルクセンブルク大使館でのパーティーに参加したり、学会に参加したりした。プログラム期間外のため参加できなかったが、毎年ルクセンブルクへの旅行も企画しているらしい。
③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など
留学生は優先度が低いので、人気の授業では抽選に落ちる可能性が高い。そのため、当初の志望科目6科目の内、最終的に履修できたのは1科目だけであるが、ここまで上手いかないのは稀らしい。予習は基本的に毎週論文を1~2つ読まされる程度で日本とあまり変わらない。復習は授業によるが、1~2時間で終わる課題が出たり、時には小レポートのようなものもあった。授業自体は週に6~10時間程度。
④学習・研究面でのアドバイス
上述の通り、取りたい授業が取れるとは限らないので、いくつか代案を考えておくと良いと思う。また、今回は事前に教授とコンタクトを取ることで、非常に親切に対応してもらえ、アドバイスも貰えたので、お世話になりたい教授等が決まっている場合は、大学のWebページからコンタクトを試みると良いだろう。
⑤語学面での苦労・アドバイス等
留学最初の2週間は授業がまだないため、留学生同士で交流することが多く、様々なアクセントの違いに苦しんだ。通常の語学学習では学ばないような表現・単語も多く使われているため、映画やカジュアルなインタビューなどできるだけ日常会話に近い英語を日頃から聞いておくと良いかもしれない。バスの運転手へのcheersは忘れずに。
生活について
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
学校の公式の寮だった。多くの留学生は専用シャワールーム付きでキッチンが共用のen suiteを選択するが、料理が好きなので占有キッチンのあるstudioを選んだ。undergraduateの場合、studioは大学中心地から徒歩20分程のところにしかないで、やや遠く感じるかもしれない。なお、大学公式でない学生寮も多く存在し、やや手続きは大変になるが、中心地に近く綺麗で広いキッチン付きの部屋が借りられるので、自信があればそちらをお勧めする。
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
曇りが多く、雨が突然降り始めるが、激しく降ることは稀。そのため傘をさす人はあまりいない。気温はそれほど厳しくなく、大体の日は厚着をすれば過ごしやすくとすら感じる。市内の公共交通機関は基本的にバス・トラム、電車は長距離の移動にしか使わない。ちなみに時間通りにはまず来ない。食事に関しては、きちんと選べば美味しいが、選択を間違えると信じられないゲテモノが出てくることもある。基本的にカードペイだが、タクシー・バス・トラムや一部のテイクアウェイのお店はキャッシュオンリー。
③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
場所によっては治安が悪く、暗くなってから一人で外を歩くことは絶対にしなかった。夜に自宅に帰る場合はバス(深夜0時くらいまで)かタクシーを使った。健康面では、乾燥しやすいので小型の加湿器を日本から持ってきて使用した。
④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
・毎月の生活費とその内訳
食費は月3万円ほど、交通費は旅行に行かない限りほとんど使わないが、キャンパス中心部から寮が離れていたためバス代(片道1ポンド)を月10ポンド程度は使ったか。洗濯は乾燥込みで一回4~4.5ポンド×4=月に16~18ポンド程度か。娯楽は少ないのであまり使わない。お酒もあまり得意ではないのでそれほど飲まなかったが、結構高いイメージである。基本的に外食をするとかなり高くなる(食事だけで10ポンド前後)。

・留学に要した費用総額とその内訳
きちんと記録していないので分からない。かなり旅行をしたので、そちらにかなり費やしていると思う。
⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
受給していない。
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
当初はダンスサークル(society)に2つ所属していたが、日本のサークルに比べレベルも熱意もはるかに低かった ので早々に行かなくなった。交換生は時間的余裕がある場合が多いので、国内外に日帰りや1~4泊程度の旅行を することが多かった。国内の主要観光地だとロンドンには電車で2~3時間、エディンバラが4時間、マンチェスター・ リーズ・ヨークは1時間弱である。バスで1時間弱のところにあるピークディストリクト国立公園にもよく足を運んだ。 また、マンチェスター空港からヨーロッパ各国へ格安航空が飛んでいる。
派遣先大学の環境について
①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
1,2週目のオリエンテーションで、学生スタッフが精一杯楽しませてくれる。この時期は無料のイベントも多く、大学 周辺はかなり賑わう。イギリス文化に親しむためのイベントも多く開催されており、ありがたかった。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
Student Union(SU)及び図書館の満足度が英国内1位である。例えば、SUの主催する日帰り旅行はかなりお得 で、アクセスの悪い場所にもバスで連れて行ってくれる。無料で食べ物や便利グッズ(ポータブル充電器やサング ラスなど)を配るイベントも多く開催される。図書館はほとんどの場所で飲食自由(暖かいものは場所が限定され る)であり、静かなSilent Spaceとおしゃべり自由なPublic Spaceがある。主要な図書館は4つだが、そのうち2つは 毎日24時間利用できる。
留学と就職活動について
①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど
帰国が6月以降になる可能性が高かったため、面接解禁時期を過ぎてしまう問題があった。 自分は関係なかったが、ロンドンで4月に開催される日系企業の就活イベントでは、かなり内定が出ていたようだ。
②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響

③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)

出発前に夏季インターンに参加し、その時点で人事と話をつけ事情を説明することで、年末年始に一時帰国して選考を受けることを許可して貰えた。

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

- | | |
|--|-----------------------------|
| | 1. 研究職 |
| | 2. 専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:) |
| | 3. 公的機関(機関名:) |
| | 4. 非営利団体(団体名又は分野:) |
| | ✓ 5. 民間企業(企業名又は業界: 某リサーチ会社) |
| | 6. 起業(分野:) |
| | 7. その他() |

留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

何より、当初予定していた言語学関連の授業が全く受講できなかったことが残念であった。一方、ルクセンブルクの社会言語学的研究において著名な方やルクセンブルク人とのコネクションができたことは非常に有意義であったし、学術書で読むのとは違ったリアルなルクセンブルクの言語事情を知ることができた点で、非常に有意義であった。

②留学後の予定

卒業論文を控えているので、今回の留学で得た知見が活かせると思う。卒業後はリサーチ系の民間企業に就職する予定である。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

留学の目的を明確にして、そのための行動を事前にしっかりリサーチしておくべきだと思います。僕の場合はルクセンブルク研究が目的だったので、研究センターの所長とは留学の1年近く前からメールでのやりとりを行っていました。空き時間は多いと思うので、そうした期間をどう使うかも事前に考えておくといいかもしれません。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

「イギリスで生活する英語表現集」
BBC
大学のWebページ

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(3ヶ月以上1年未満)

2016 年 6月 25日

東京大学での所属学部・研究科等:	法学部	学年(プログラム開始時):	学部3
参加プログラム:	全学交換留学	派遣先大学:	シェフィールド大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input type="checkbox"/>	1. 研究職	<input type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input checked="" type="checkbox"/>	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input checked="" type="checkbox"/>	5. 民間企業(業界:)	<input type="checkbox"/>	6. 起業
<input type="checkbox"/>	7. その他()		

派遣先大学の概要

イングランド中部(マンチェスターから東に鉄道で約一時間、ロンドンから北に約二時間)に位置する国立の総合大学です。

留学した動機

東京の喧騒から一年弱距離を置き、ゆったりと自律した生活を送る良いチャンスだと考え留学しました。また、専攻する政治学の分野で著名な教授がいることや、興味関心の強かった東アジアの人文社会科学に関する講義も充実していることから、シェフィールド大学を選択しました。

留学の時期など

①留学前の本学での修学状況:	2016年	学部3	年生の	S2	学期まで履修
②留学中の学籍:	留学				
③留学期間等:	2016年	9月~	2017年	6月	
	学部3	年時に出発			
④留学後の授業履修:	2017年	学部4	年生の	A1	学期から履修開始
⑤就職活動の時期:	2017年	学部4	年生の	10月頃に	行う予定
⑥本学での単位数:	留学前の取得単位			52	単位
	留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位			0	単位
	留学後の取得(予定)単位			38	単位
⑦入学・卒業/修了(予定)時期:	2014年	4月入学	2019年	3	月卒業/修了
⑧本学入学から卒業/修了までの期間:	5年		ヶ月間		

⑨留学時期を決めた理由:

一年間卒業を遅らせれば、留学の影響をほとんど受けることなく進路選択や本学での学修に取り組みられると考えたため。

留学の準備

①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

特に困難はありませんでした。留学先の履修要件等に関して質問の連絡をした際も、滞りなく返信が来ました。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

留学先からの指示に丁寧に従えば、特に不明な点はないかと思います。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

日常的な常備薬のほか、風邪用のビタミン剤を持っていきました。なお、私は利用しませんでした。イギリスのNHS(国民皆保険制度)は評判がよくありませんでした。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

東京大学から指定された保険にのみ加入しました。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

特にありませんが、法学部では留学決定後、法学部の教官の方との一対一での面談がありました。大変心強かったと記憶しております。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

IELTS7.0を取得していました。私は怠慢でやりませんでした。当然、時間に余裕があれば事前の語学学習、特に語彙力の強化をするに越したことはないと思います。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

授業が始まる前の一週間ほど、オリエンテーション期間が9月中旬より始まりますが、多くの友人を作る良い機会だと思いますので、積極的な参加を勧めます。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったもの(又は行う予定のもの)に●をつけてください。

授業科目名	単位数	単位認定の申請	授業科目名	単位数	単位認定の申請
EAS368 Memory and History in East Asia	20		POL231 Never Mind the Ballots! State and Society in the UK Today	20	
EAS370 China's Rise-Domestic Transformation, Global Expansion	20				
POL115 Consensus, Crisis and Coalition: Introduction to British Politics	20				
POL206 The Politics and Government of the European Union	20				
POL234 Political Theory in Practice	20				

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

一つの授業科目ごとに、講義とセミナーが一時間ほどずつ充てられます。政治学部の講義は大人数のものでしたが、セミナーは少人数であり、チューターの方とも近い距離で議論ができました。東アジア学部の科目は履修人数が少なく、講義の時間もディスカッション形式で進められることが多かったです。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

一学期あたり60module、科目数でいうと3科目程度のみ、履修することができます。一科目あたり20ページ程度の論文が三つほど課せられ、全てをこなそうとすると一週間あたりに20時間近くは勉強しなければならないことになります。また2000から3000wordsほどのエッセイ課題と、二時間の試験が、ほぼ全ての科目に課されます。

④学習・研究面でのアドバイス

秋学期の前半はまじめに全ての論文を読むように取り組んでいましたが、冬が近づきエッセイ課題に追われるようになるにつれ、一科目あたりに一つの論文を読むのが関の山となってしまいました。毎週の課題をやるかやらないかは本人次第ですが、全くやらないとセミナーで肩身の狭い思いをすることになります。

⑤語学面での苦勞・アドバイス等

授業などの学習においては、言葉による劣後は避けられないので、毎週何か発言できるネタを用意するようにしていました。政治学部のセミナーではイギリス出身の学生が大半を占めており、議論についていけなくなったり発言するチャンスを逃すことも常でした。日常生活においては、現地の人々の英語や、アクセントの強い国々の人々の英語は極めて聞き取りにくく困難を感じました。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

Allen Courtという、大学と提携している学生寮に住んでいました。大学と駅の双方に近く、立地に関しては便利でしたが、周辺的环境は閑静な住宅街といった雰囲気ではありません。標高の高いエリアに位置する、EndcliffeやRanmoorの学生寮の方が緑が豊かで住環境の点では優れているのではないかと思います。またEndcliffeやRanmoorの方が部屋を隔てる壁が分厚いと聞きました。Allen Courtはその点かなり薄く、困難を感じることもありました。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

冬は日照時間が極めて短くなり、気分が晴れないことも多いですが、9月から10月、3月から6月にかけては、晴れの日も多く気持ちのよい気候でした。交通機関に関しては、早い段階でNational RailのRail Cardを取得しておく、国内旅行で便利かと思えます。英国の銀行アカウントは、私は作りませんでした。特に必要ではないと感じました。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

学生が多く基本的に安全かとは思いますが、市街地周辺では夜は注意が必要だと感じることもありました。

④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

・毎月の生活費とその内訳

家賃に8万円、食費や生活費に2~3万円、その他に旅行やサークル活動でお金を使いました。

・留学に要した費用総額とその内訳

旅行やスキーサークルでの練習でかなり費用を要したので、それらを除けば往復渡航費やビザ代などもあわせて60万円程度(寮費除く)かと思えます。旅行は国内旅行を含めて月平均2~3回し、それらを含めると総額で120万円は下らなかったかと思えます。この点はかなり人によって変動すると思うのであまり参考にはならないであろうことを言い添えておきます。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

トビタテ留学JAPAN奨学金より、毎月16万円頂いておりました。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

秋学期はスキーサークルの練習に参加し、冬休みにはフランスにて一週間ほどのスキー合宿に参加しました。春学期は主にセミナーなどで仲良くなった友人と時間を過ごしていました。

派遣先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

私は利用しませんでした。10月頃までに申請をすれば、学生サポーターをつけることができ、その評判は良いようでした。その他大学の事務の対応は概ね良かったように感じます。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

図書館は大きくはありませんが概ね整っていました。スポーツ施設に関しては、寮近くのThe Gymという施設を契約して通っていましたが、大学の施設も充実していました。

留学と就職活動について

①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響

シェフィールド大学の学生の中には、特に地元出身の学生を中心に、将来のキャリア選択に対する姿勢が東大の学生とは大きく異なると感じさせる人々が一定数いました。すなわち、キャリア選択に関しては地元やマンチェスターなどの大都市で自らの専門に近いものができればそれで満足であり、キャリアよりはむしろ趣味や家庭の中で幸せを志向するというような発想の学生が多かったように感じられます。そのような学生と触れることで、将来の就職やキャリアの描き方について自分自身の考え方の幅も広がったのではないかと感じます。

③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)

特に行いませんでした。

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

- | | |
|--|--------------------------|
| | 1. 研究職 |
| | 2. 専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:) |
| | d |
| | 4. 非営利団体(団体名又は分野:) |
| | 5. 民間企業(企業名又は業界:) |
| | 6. 起業(分野:) |
| | 7. その他() |

留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

シェフィールド大学の学生は、地元ヨークシャー出身の若者から、コモンウェルス出身の留学生まで幅広く、学習に対するモチベーションも、志の高い学生からそうでない学生まで幅広かったように感じます。一方の東大は、良い意味でも悪い意味でも選抜された狭い集団だったのだと痛感しました。その点で、留学前は固定的な価値観に浸りがちであったのが、留学後はより幅広く、自由に物事(特に人生観や生き方)を考える事ができるようになったように感じます。

②留学後の予定

一年間学生生活を延長して法学部の勉強に復帰しつつ、就職活動をする予定です。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

留学で得たいと頭のなかで思い描いていたものが意外と手に入らないこともある一方、逆にまるで想像のしなかった出会いを得ることもあります。そのような生活を一年間続ける中で、頭のなかで思い描きがちな「こうでなければならぬ」価値観に囚われる行為がまるで無意味であると知れることが、留学の魅力の一つのように感じます。言い換えると、①でも書いたように、思考が自由になったという実感を得られたことが留学の魅力・成果の一つだったのではないかと思います。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

特になし。

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。